25　「源氏物語」紫式部　─中古の作り物語

18年度　聖心女子大学

★　次の文章は、『源氏物語』「若紫」の巻の一節である。これを読んで、後の問に答えよ。

　光源氏は、偶然垣間見た少女・の（本文では「若君」「君」）にかれ、彼女を理想通りに育ててみたいと考えていた。そこで紫の上が唯一の家族であった祖母を亡くすと、ある晩、紫の上とそののを強引に連れ出し、自らの邸の「西の」という建物に二人を住まわせることにした。

　こなたは住みたまはａぬなどもなかり召して、御など、あたりあたりしたてｂさせたまふの引き下などただひきつくろふばかりにてあれば、の召しにはしてりぬ。若君は、いとむくつけう、いかにすることならむとはｃれたまへど、Ａさすがに声たててもえ泣きたまはず、「少納言がもとに寝む」とのたまふ声いと若し。「今は、さは⑴大殿籠るまじきぞよ」と教へきこえたまへば、Ｘいとわびしくて泣きしたまへり。はうちも臥されず、ものもおぼえず起きゐたり。

　明けゆくままに見わたせば、の造りざま、しつらひざまさらにもいはず、庭のも玉を重ねたらむやうに見えて、く心地するに、Ｙはしたなく思ひゐたれど、こなたには女などもさぶらはざりけり。うときなどの参るをりふしのなりければ、男どもぞの外にありける。かく人迎へたまへり、とほの聞く人は、「誰ならむ。Ｂおぼろけにはあらじ」とささめく。

　御、御などこなたにまゐる。日高う寝起きたまひて、「Ｃ人なくてあしかんめるを、さるべき人々、夕づけてこそは迎へさせたまはめ」とのたまひて、にべ⑵召しにはす。「小さきかぎり、ことさらに⑶参れ」とありければ、いとをかしげにて四人参りたり。君は御にまとはれて臥したまへるを、せめて起こして、「かうくなおはせそ。すずろなる人は、かうはありｄなむや。女は、心やはらかなるｅなむよき」など今より教へきこえたまふ。御は、さし離れて見しよりも、いみじうらにて、なつかしううち語らひつつ、をかしき絵、遊び物ども取りに遣はして見せたてまつり、御心につくことどもをしたまふ。やうやう起きゐて見たまのこまやかなるがうちえたるどもを着て、何心なくうちみなどしてゐたまへるがいとうつくしきに、Ｚ我もうち笑まれて見たまふ。

注１　対―寝殿造において、中心の建物である寝殿の周囲に置かれた別棟の建物。

　２　御帳・御屛風・御几帳・御座―当時の室内に置かれた調度品。御帳・御屛風・御几帳は室内を仕切るための道具。御座は敷物。

　３　惟光―光源氏の家来。

　４　御宿直物―寝具。

　５　鈍色―当時、喪服に用いたねずみ色。紫の上は祖母の喪に服している。

問１　―部Ａ「さすがに声たててもえ泣きたまはず」・Ｂ「おぼろけにはあらじ」・Ｃ「人なくてあしかんめるを」の現代語訳として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選べ。

Ａ　さすがに声たててもえ泣きたまはず

　①　そうはいっても声を上げてお泣きにもなれず

　②　って声を上げてお泣きになることもできず

　③　思った通り声を上げてお泣きにもなりそうで

　④　偉いもので声を上げてお泣きにもならなくて

　⑤　やはり声を上げてお泣きになることもなくて

Ｂ　おぼろけにはあらじ

　①　ありきたりの人に違いない

　②　はっきり見ることはできまい

　③　並大抵のお方ではあるまい

　④　覚えている人はいないだろう

　⑤　高貴なお方ではないだろう

Ｃ　人なくてあしかんめるを

　①　人がいないのか確かめようと思うので

　②　人がいないとしたら不足に違いないので

　③　人がいないと後ろめたくお思いだから

　④　人がいなくて不自由なように見えるので

　⑤　人がいなかったら寂しく思われるから

問２　＝部ａ～ｃの助動詞の意味として適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選べ。ただし、同じ選択肢を二回以上用いてはならない。

①　推量　　②　受身　　③　可能　　④　打消

⑤　自発　　⑥　尊敬　　⑦　完了　　⑧　使役

ａ＝［　　　］　　ｂ＝［　　　］　　ｃ＝［　　　］

問３　＝部ｄ・ｅ「なむ」の文法的説明として適切なものを、それぞれ次の中から一つずつ選べ。

①　他への希望の終助詞「なむ」

②　完了の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」

③　ナ変動詞の活用語尾＋推量の助動詞「む」

④　強意の係助詞「なむ」

⑤　マ行四段活用動詞「なむ」

ｄ＝［　　　］　　ｅ＝［　　　］

問４　　　部⑴「大殿籠る」・⑵「召し」・⑶「参れ」は誰の動作を指しているか。適切なものをそれぞれ次の中から一つずつ選べ。

①　光源氏　　②　紫の上　　③　少納言

④　惟光　　　⑤　童べ

⑴＝［　　　］　　⑵＝［　　　］　　⑶＝［　　　］

問５　----部Ｘ「いとわびしくて泣きしたまへり」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　紫の上は、少納言から引き離されたことで不安な気持ちになった。

②　紫の上は、光源氏に諭されたことでみじめで恥ずかしく思った。

③　紫の上は、調度品が整わない室内にみすぼらしい気分になった。

④　少納言は、紫の上と一緒に眠ることができずに悲しく思った。

⑤　少納言は、紫の上のみじめな境遇を思うとかわいそうになった。

問６　----部Ｙ「はしたなく思ひゐたれど」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

①　少納言は、心配のあまり美しい庭の様子も目に入らないでいる。

②　少納言は、あまりにも立派な邸の様子に気が引ける思いでいる。

③　紫の上は、今後自分がどのように扱われるか不安に思っている。

④　光源氏は、男どもがどう思っているか決まりが悪く感じている。

⑤　光源氏は、紫の上が起きないので、手持ち無沙汰に思っている。

◎問７　----部Ｚ「我もうち笑まれて見たまふ」とあるが、誰の、どのような気持ちが込められているか。わかりやすく説明せよ。

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

◎問８　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

①　西の対には見事な調度品が揃えられ、女房たちが控えていた。

②　紫の上は、即座に光源氏邸の素晴らしい様子に心を奪われた。

③　紫の上は、自分と同じ年頃の童たちが来たことで安心をした。

④　光源氏は、紫の上の機嫌をとるために、早朝から起き出した。

⑤　光源氏は、突然の事態に不安がる紫の上を様々に教え諭した。

問９　『源氏物語』より後の時代に成立した作品の組み合わせとして正しいものを、次の中から一つ選べ。

①　蜻蛉日記・新古今和歌集

②　日本霊異記・徒然草

③　うつほ物語・風土記

④　狭衣物語・平中物語

⑤　宇治拾遺物語・雨月物語

【解答】

問１　Ａ＝①　Ｂ＝③　Ｃ＝④

問２　ａ＝④　ｂ＝⑧　ｃ＝⑤

問３　ｄ＝②　ｅ＝④

問４　⑴＝②　⑵＝①　⑶＝⑤

問５　①

問６　②

問７　Ａ光源氏の、Ｂ当初は打ち解けてくれなかった紫の上がＣ無邪気に笑う様子を見て安心するとともに、Ｄ彼女をかわいく思う気持ち。

評価の基準　Ａの内容がないものは全体０。

　　　　　　Ｂ＝３

　　　　　　Ｃ＝３

　　　　　　Ｄ＝４〔「気持ち。」がなければ減点１。〕

問８　⑤

問９　⑤

【現代語訳】

　こちらは（普段は）お住みにならない建物であるので、御帳などもなかった。（源氏は）惟光をお呼びになって、御帳や御屛風などを、あちこちにきちんと用意させなさる。（後は）御几帳の帷子を引き下ろし、敷物などもわずかに整えるくらい（の準備の進んだ状態）であるので、東の建物に御寝具をお取り寄せに（人を）おやりになっておやすみになった。紫の上は、ひどく恐ろしく、どのようにする気であろうかと自然と震えなさるが、そうはいっても声を上げてお泣きにもなれず、「少納言の所で寝たい」とおっしゃる声が本当にあどけない。「もう、そのようにはおやすみになってはいけないのだよ」と教え申し上げなさると、（紫の上は）本当にせつなくて泣いて横になりなさった。乳母は体を横にすることもできないで、正気でない思いで起きていた。

　夜が明けてゆくに従って（邸の様子を）見渡すと、御殿の造り具合や、飾り付けの様子は言うまでもなく（すばらしく）、庭の砂もまるで宝石を（敷き）重ねたように見えて、輝く（ような）気持ちがするので、（少納言は）きまりが悪く思っていたが、こちら（の建物）には女房などもお控え申し上げていなかった。親しくない訪問客などが参上する折の場所であったので、男たちが御簾の外にいた。このように恋人をお迎えになった、とかすかに耳にする人は、「どなたなのだろうか。並大抵のお方ではあるまい」とひそひそ話している。

　手や顔を洗うお水や、お粥などはこちら（の建物）でお使いになる。（源氏は）日が高くなってから起きなさって、「人がいなくて不自由なように見えるので、最も適当な人たちを、夕方になってからお迎えになるのがよいだろう」とおっしゃって、（東の）対に子供の召し使いをお呼び寄せに（人を）おやりになる。「小さい者だけ、特別に参上せよ」ということだったので、本当に愛らしい感じで四人の者が参上した。紫の上はお召し物にくるまって寝ていらっしゃるのを、無理に起こして、「このように不愉快にふるまいなさるな。いい加減な気持ちの人は、（私のように）こんな（に親切）であるだろうか、いや、あるはずがない。女は、気だてが素直なのがよいのだ」などと今からもう教え申し上げなさる。（紫の上の）お顔立ちは、遠くから見たときよりも、たいへん美しくて、（光源氏は）親しみ深く語り合いながら、様々なおもしろい絵や、おもちゃをお取り寄せになって見せ申し上げ、（紫の上が）お気に召すようなことをいろいろとなさる。（紫の上は）しだいに起きて座って（それらを）ご覧になるが、ねずみ色の濃い色のもの（＝喪服）で着古してくたくたになったものを重ねて着て、無邪気にふとにっこり笑うなどして座っていらっしゃるのが本当にかわいらしいので、（光源氏ご）自身もふとにっこり笑って（紫の上を）ご覧になる。